



通信機のいろいろ

上段中央が通信型受信機。そのほかは旧タイプの短波用の通信を目的とした送受信機の例。短波放送の受信も可能。

● 通信機

一方、通信機はアンテナ端子から入ってきた目的の信号を音声信号として出力する装置です。アンテナが付属していないことを除けばラジオと似ていますが、一つ一つの性能を確実に保証しているところが大きな違いです。性能の基準はそれぞれの項目ごとにあります。スピーカ出力は最低で50mWが要求されます。

感度は用途によって異なります。アマチュア無線機のように極限を要求するものもあれば、プロ機のように安定した一定値を要求するものもあります。選択度も受信する信号の幅(帯域)に合わせて数値で規定されます。個々の項目がきっちりと規定されているのが通信機で、そのように決めなければ図1-8-1のように通信回線を細かく設計することはできません。

ここで、民生用と業務用の通信機器の一般的な差についても説明しておきます。個々の用途ごとには細かい差はありますが、特性を理解した人が操作することを前提に能力一杯に使っても壊れにくいのが業務用です。そして、利用環境を想定し、一般の人がある程度余力をもって使うことを想定しているのが民生用と考えて間違いはありません。

生産数が十分に多いもの同士の比較であれば、民生用と業務用にはあまり価格差はありません。オーディオのパワー・アンプを例にとると、フルパワーを何カ月も連続して出し続けられるのは業務用だけです。

しかし、音質(家庭で使う出力程度のもの)は民生用の高級品のほうが上で、価格も民生用のほうが高価な場合もあります。